コンテナ苗の普及に向けた現地検討会を開催

［岐阜署／森林技術・支援センター］7月20日、岐阜署管内の高天良国有林において「ヒノキコンテナ苗生産者による現地検討会」を開催しました。

コンテナ苗は、通常流通している普通苗に比べて「植栽できる時期が長い」「植栽が容易」「活着率が良い」等、低コスト造林技術の確立のために不可欠であり、その試験研究が全国で行われています。

高天良国有林において、岐阜県森林研究所と共同によるコンテナ苗試験を開始し、三年間の観察により育苗がコンテナ苗の生長に影響することが分かってきたことから、苗木生産者を対象とした検討会を企画したところ、県内の苗木生産者、全国のコンテナ苗研究者（一貫作業促進共同研究機構）等42名の参加がありました。

はじめに、高天良国有林の試験地において、森林技術・支援センター三村森林技術普及専門官から苗木生産者に、コンテナ苗用に開発された様々な植栽器具の展示説明を行いました。

育苗の違いによる苗木の生長を説明する三村専門官

その後、研究者等と合流し、岐阜県森林研究所茂木主任専門研究員・渡邉専門研究員から「ヒノキコンテナ苗の育苗の違いによる成育状況等の説明」がありました。

午後は会場を住友林業㈱岐阜樹木育苗センターに移し、住友林業㈱の川添シニアマネージャー等からスギコンテナ苗の生産状況等についての説明を受け、その後施設の視察を行いました。

樹木育苗センターで説明の様子

苗木生産業者と研究者の意見交換会は車座形式にて行われ、研究者から発芽率の向上、山出し時期に合った育苗、プラグ苗を活用した省スペース生産等研究の状況説明と併せ、植栽実績の多い国有林に、植栽したコンテナ苗の評価についてフィードバックが求められました。また、苗木生産者からコンテナ苗生産の苦労話が出されるなど、コンテナ苗の品質向上に向けた取組みに有意義な意見交換会となりました。

今後とも、蓄積している実証データと、継続中の生長調査データをとりまとめ、ホームページ等により情報発信するなど低コスト造林技術の開発・普及に取り組んでいくこととしています。

次いで7月21日は、市町村、林業事業体等を対象にコンテナ苗研修会を開催しました。

前日と同様に全国のコンテナ苗研究者と合同開催し、屋内研修会では全国のコンテナ苗（スギ、ヒノキ、カラマツ）の動向や研究成果をお話いただきました。

参加者は56名。研究者と受講者の意見交換では、コンテナ苗の取扱い（従来の造林（裸苗）との違い、仮植は可能か）などの意見が出され、活発な意見交換が行われました。

岐阜県森林研究所の研究成果発表の様子

現地研修会では、前日と同様に、岐阜県森林研究所からコンテナ苗の生育状況をはじめ、従来の裸苗との比較等についてパネルを使ってわかりやすく説明されました。

その後、森林技術・支援センターからコンテナ苗を植栽する専用の器具（スペード、ディブル、専用鍬）を紹介し、受講者によるコンテナ苗の植栽体験を行いました。

7月の炎天下での研修会になりましたが、勉強になったと好評価の意見が多く聞かれ、民国連携やコンテナ苗を普及する意味で有意義な研修会になりました。

林野庁　中部森林管理局
〒380-8575　長野県長野市大字栗田 715 番地 5
TEL　050-3160-6508

国民の森林・国有林